



地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 140年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人権と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います



11月14日世界糖尿病デーin人吉医療センター

現在、世界の糖尿病人口は増え続けており、2035年には約6億人に達すると試算されています。特に日本が位置するアジア・太平洋地域の患者数の増加は深刻で、2014年は1億3800万人と全世界の約1/3の糖尿病患者がこの地域に集中しています。我が国でも、糖尿病と強く疑われる人、可能性を否定できない人の合計は約2050万人に上り、早急な対応が迫られています。このような状況を踏まえ、国際連合では、インスリン開発した医師の生誕日である11月14日を「世界糖尿病デー」に指定し、世界各地での糖尿病予防・治療、療養を喚起する啓発運動を推進するよう呼びかけました。糖尿病キャンペーンのシンボルマーク「ブルーサークル」は国連や空を表す「青(ブルー)」と、団結を表す「輪(サークル)」を意味しており、この日に世界各地で一斉にブルーライトアップを実施しています。

当院でもこの活動に賛同し、昨年に続き今年度もブルーライトアップ実施だけでなく、糖尿病予防、合併症進行予防のためのイベントを企画し実施しました。また、今年度は球磨地域の糖尿病患者数、透析導入率は問題となっていると情報があったため、球磨地域を中心に広報活動し、糖尿病発症・

進行予防に貢献できる活動にしたいと考えました。

内容としては、健康チェックコーナーとして、血糖測定・血圧測定・BMI測定を行い、待ち時間にDVD視聴できるコーナーも新たに設けました。加えて今回は、栄養士による栄養相談、医師・糖尿病看護認定看護師による相談コーナーに歯科医師、薬剤師も追加しました。昨年人気のあった理学療法士による運動コーナーでは、握力測定行い、サルコペニア予防についての指導も行いました。昨年60名程度の来場でしたが、今年度はその人数を超え、90名以上の方の来場があり、参加された方からは「ずっと糖尿病ではないかと不安があったまま生活していたので、ここで調べてもらえてよかったです」という感謝の言葉もいただきました。その他に「講演も聞きたいです」というご意見もいただき、来年度のイベント内容に追加できるよう検討していきたいと考えています。イベント開催にあたり、ご支援いただいたスタッフの皆様には心から感謝いたします。

糖尿病看護認定看護師 根笹 真由美

JCHO地域医療総合医学会

11月1、2日の2日間、パシフィコ横浜で第5回JCHO地域医療総合医学会に参加させていただきました。学会期間はラグビーワールドカップも開催されており、会場周辺は外国人やラグビーファンをたくさん見かけました。

今回の学会テーマは『士魂商才』でした。内田直樹学会長の講演では、ご自身の体験から『嘘をつかない・自分に恥じない行動をとることが、患者の信頼につながる』話には、仕事に対する価値観を改めて考えさせられました。

私は、『退院支援』グループでのポスター発表でした。連携が必要な内容のため、看護師のみでなくソーシャルワーカーなど他職種との連携をテーマにした内容の物が多く、超高齢時代のためコメディカルとの連携は



どの病院でも欠かせなくなっていると感じました。今回初めて学会発表し、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

次回は地元熊本での開催予定です。

看護師 平富 孝美

人吉医療センター地域研修会開催のお知らせ 認定看護師のちょっとためになる話Ⅱ

11月16日(土)、今年2回目となる「認定看護師のちょっとためになる話」を、当院3階講堂で開催いたしました。この研修会は各分野の認定看護師が、「明日から業務に活かせる内容をわかりやすく楽しく伝える」という事をコンセプトにしています。当日は地域の看護職・介護職を中心に32名の参加があり、専門職としての意識の高さを感じました。

研修は受講された皆さんに少しでもわかりやすく伝えるため、事例を用いた講義やディスカッション、手術器具を提示しながら術後の注意点を説明するなど、各認定看護師



も講義内容に工夫を凝らしていました。研修後のアンケートでは、「業務に活用できそうか?」の問いに対し全員から、「はい」という回答をいただきました。

我々認定看護師会は、地域の医療者の皆様と共に、成長していけるような研修会を企画・開催していきたいと考えています。今後とも宜しくお願い致します。

救急看護認定看護師 杉松 幸太郎

地域緩和ケア連携調整員研修会

11月3日～4日 国立がん研究センター築地キャンパスにおいて 在宅緩和ケア部長渡邊医師、緩和ケア病棟久保田看護師長、がん相談支援センター 南、杉松にて地域緩和ケア連携調整員研修会を受講しました。

当研修会は地域緩和ケア連携調整員とはどんな事をするのか、何を期待されているのかを学ぶ研修であり、地域包括ケアや医療介護連携の制度的背景～連携推進に向けて病院・施設・在宅に期待される役割などについて各分野の最先端で活躍されている方々より丁寧に講義されました。

そこでは、顔の見える関係の構築こそが、病院と地域との連携促進に繋がることを繰り返し話されました。

また、他職種、職種別、施設ごとのグループワークにて、各々が抱える問題、地域が抱える課題等について話し合うことで、課題の再認識、当地域の良さについても客観的に見る事が出来ました。

今回の研修を通じ、人吉医療センターの役割について参加メンバーで話し合い課題達成の為の行動目標計画を立てました。住み慣れた地域で、希望する場所で療養が受けられるよう、今後も地域緩和ケア連携に取り組んで参りたいと思います。

医療福祉連携室 杉松 紗織



母乳育児支援基礎セミナー IN 人吉

「赤ちゃんとお母さんに優しい病院運動BFHI」に認定された病院は日本に79施設あります。基礎セミナーとは、どこでも同じような母乳育児支援が提供できるように基礎から学ぶための学習会です。

今回は奥起久子先生(新生児科医)、大坪三保子さん(たちね助産院)、朝倉真理子さん(助産院ばびい院長)3名のIBCLC(国際ラクテーションコンサルタント)をお招きし貴重な講義を受けました。

赤ちゃんは生まれてすぐに自分の力で這っていき、母親の乳房を探す探索行動がみられます。その出会いの時間を大切にすることで赤ちゃんの力を最大限に発揮できます。母親に抱かれることで低体温、低血糖も防ぐことができます。

当院でも早期母子接触、母子同室などを行っていますが、母乳育児支援一つ一つに大きな意味と科学的根拠があることを学びました。

当院9階病棟から6名、人吉球磨、熊本県内から計16名の参加があり、スタッフの知識やコミュニケーションスキル、モチベーション向上、仲間作りができました。支援の輪を少しずつ広げて、赤ちゃんとお母さんに優しい地域を目指していきたいと思います。



9階病棟 助産師 矢立 智春

人吉球磨地域特定給食施設等栄養士研修会の開催

人吉球磨地域の高齢化率は36.8%(平成29年)で、熊本県平均の30%を上回っており、今後急速な進展が予測されています。その中で期待されていることは、医療、介護等様々な分野が連携して、地域全体で住民を支える体制作りです。

そこで、特定給食施設等で勤務する職員が切れ目のない栄養管理を行うために、人吉球磨地域で共通の栄養管理情報提供書の作成や活用を進め、栄養管理に関する情報共有を図っていくため、11月7日に上記研修会(人吉保健所主催)が当院講堂で開催されました。

当院では、2016年より食形態や栄養に関する栄養情報提供書を転院・転所時の連携ツールとして作成しています。これらの作成状況の報告や栄養情報の連携に苦慮した症例報告をこの研修会で発表させて頂き、他施設間でも栄養情報提供書を活用していくことを提案させて頂きました。

また、研修会では共通の栄養情報提供書の作成に際し、必要な項目、表示形式、各施設の食形態を嚥下調整食分類2013に基づいて分類するなどのグループワークが行われました。各施設の栄養士が自施設での業務を想定しながら活発な意見が交わされました。さらに、他施設での栄養管理業務の状況が垣間見え、有意義な研修会となりました。

共通栄養情報提供書の様式を確立させていき、これからは栄養士ならではの地域住民の支援に務めて参ります。



栄養管理室 中村 利枝

出前講座

アドバンスケアプランニング(ACP)のご紹介



10月17日(水)10時から瓦屋町シニアクラブ健康教室にて当院緩和・在宅医療部長の渡邊 龍太郎医師がアドバンスケアプランニングについて講演を行いました。約60名の方の参加があり、「幸せに死ぬための話し合い」について当院が作成したACPシートに沿ってひとつひとつ説明が行われました。渡邊医師より「幸せに死ぬために信頼出来る方と自分の希望を話し合う事が必要。話すタイミングは『今』そのきっかけとしてACPシートを使ってください。いつでも内容は書き換えられるし、話す事をいやがる方もいるので無理して聞き出す事はしないでください。とACPシートを使う注意についても参加者へ伝えられました。

皆さんメモを取りながら熱心に話を聞かれ、ACPシートについて命のボタンと保管しておけば搬送先にも伝わるのか? また、緩和ケア病棟の利用や自宅で緩和ケア治療を受けたい場合はどうすれば良いか等活発に意見を述べられました。中には毎年エンディングノートを書き換えられている



参加者の方もいらっしゃいました。

講演前はアドバンスケアプランニングについてご存じの方はほとんどいらっしゃいませんでしたが、今回の講演を機に自分の今後の希望について考えていただき、身近な方との話をするきっかけになればと思います。

縁起でもなかばってん気軽に話せるよう今後もACPの周知活動に取り組んでいきたいと思っています。ご依頼がありましたら連携室までご連絡ください。

医療福祉連携室 杉松 紗織

ひとよし在宅支援診療所のご紹介

超高齢化社会・人口減少社会に対応するため、在宅医療の充実が呼ばれています。

国が推奨している地域医療構想の中でも、その地域の実情にあった質の高い在宅医療体制を構築していく事はとても大切なことです。

ひとよし在宅支援診療所は、地域一体となった在宅医療体制をとるという理念のもと在宅医療を提供する複数の医師が協力して、よりシームレスで充実した在宅医療体制を確立していく事を目的として開設されました。

11月1日より正式に医療法人となり、伊津野清徳理事長をはじめ平井奉國幹事、小林清市幹事、権藤修理事、田中洋一理事、西村卓祐理事、増田隆二理事、外山裕二理事以上8名の医師によって運営されています。

医療法人名は、住民に寄り添い必要とされる医療を提供できるように、人間にとって最も大切な空気・光・大地・太陽を



熊本県人吉市九日町 106-1
Tel: 0966-34-3340

意味するラテン語で頭文字「A・L・T・S」をとって「医療法人アルツ」を命名しています。

より充実した在宅医療を展開していくには、他職種の連携と地域住民の皆様のご協力が大変重要となってきます。

これから、地域に根差した在宅医療を展開できるよう協力してまいり所存ですのでご協力のほどよろしくお願いいたします。

外山 裕二

在宅で活用できる介護ケア・サービス紹介 ～在宅でのサポートが必要な方へ～

病気やけがにより、お身体の状態が変化することで、在宅で以前のように過ごすため、サポートを必要とすることがあります。現在、住み慣れた地域で安心して暮らせるように地域包括ケアシステムの構築が推進され、医療・介護の連携のもとさまざまなサービスや支援体制が整えられています。

当相談室でも様々な相談を受けることがありますが、今回は実際に在宅で活用できるケア・サービスや事例についてご紹介します。

活用例) 80歳男性 78歳妻と2人暮らし 要介護2（認定を受けたばかり）

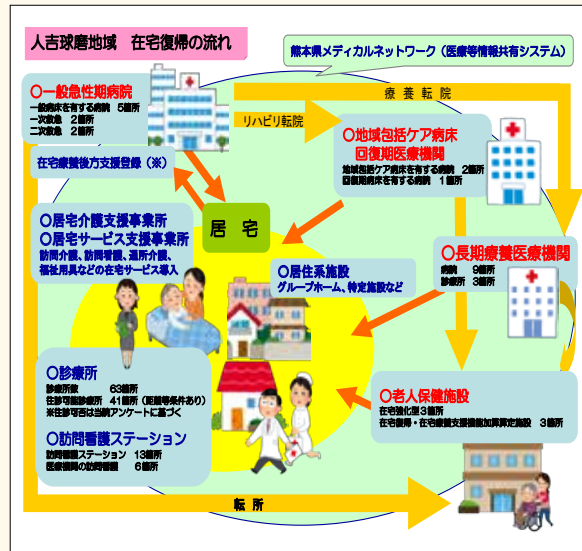
近隣に息子夫婦が住んでいるが仕事がありなかなかサポートが難しい。

高血圧、糖尿病等で近医通院中。

ADL：1本杖歩行～車いす

今回、尿路感染症、肺炎で入院し、状態安定し、在宅酸素を導入後自宅退院

- ・食事援助→ヘルパー
- ・食事・入浴支援→デイサービス
- ・服薬管理、酸素管理→訪問看護、在宅療養後方支援登録
- ・電動ベッド、シャワーチェア、手すり、段差解消→福祉用具
- ・在宅療養後方支援登録（医療管理が必要な方が、事前に登録し、緊急入院を後方支援病院がサポート）
- ・かかりつけ医やケアマネージャー等との連携：熊本県メディカルネットワーク登録（熊本県の情報共有システム）



（地域包括ケアシステム 厚生労働省 HP 参照）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiki-houkatsu/

※人吉球磨地域では、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、介護職員等の多職種協働による在宅医療の支援体制を強化し、

包括的かつ継続的な在宅医療の提供を目指すだんだんあネットが稼働しています（HP

： <https://www.dandanna.net/>）。

このような相談の窓口として、お住まいの市町村役場（地域包括支援センター）がごさいます。

当院通院中や入院中の方で、在宅サービス等についてのお尋ねやご相談がありましたら、どうぞお気軽にご相談ください

人吉医療センター 医療福祉連携室 Tel: 0966-22-2191（内線：240）

第11回看取り事例報告会

10月24日（木）19時より当院3階講堂にて第11回看取り事例報告会が行われました。この事例報告会は人吉・球磨在宅ドクターネットの主催で活動されてきましたが、今回より在宅医療・介護連携推進事業啓発部会が主催となり、共催で在宅医療サポートセンターも参加をさせていただきました。対象者も一般住民も参加もできるようになりました。主に医療・福祉関係者の参加があり約100人の参加がありました。

今回、訪問看護ステーションや小規模多機能施設、緩和ケア病棟など各場面での計6事例の発表がありました。各分野、患者・家族さんの思いに寄り添って、様々な工夫や取り組みをされていることがわかりとても勉強になりました。

当院からも緩和・在宅医療部長渡邊先生より「当院のACP普及啓発活動と在宅看取りについて」と題して、先日当院フェスティバルでも行ったアドバンスケアプランニング（ACP）の寸劇の映



像を盛り込んで、現在の当院で実施しているACP普及啓発活動を説明され、当院での在宅看取りの現状についても事例を挙げながら説明をされました。今後も各関係機関と連携を図りながらACP普及啓発活動の継続と患者・家族の意思に寄り添った在宅看取りの支援ができるよう努めていきたいと思ひます。

医療福祉連携室 田頭 隼人

登録医紹介パンフレット

鹿児島県伊佐地域、宮崎県えびの市地域の医療機関を追加しました！

今年8月より当院正面玄関付近に登録医パンフレットを設置しています。（※パンフレット設置を希望された医療機関のみ）登録医とは、患者の皆様の病状にあった継続性のある医療を切れ目なく行うため、当院と連携している地域の医療機関の先生方（かかりつけ医）のことです。

地域医療機関の先生方より紹介された患者さんの受け入れをはじめ、当院で治療中の患者さんの内、状態が安定している患者さんの逆紹介を積極的に行っており、地域完結型医療として先生方との連携を強化しております。

この度、人吉・球磨地域の医療機関に加え、鹿児島県伊佐地域、宮崎県えびの市地域の医療機関を追加しました。

是非、患者さん又はご家族、当院を来院された方へこのパンフレットを手にとってもらい、かかりつけ医を探す等の一つのツールとして、活用いただきたいと思っております。さらに詳しい情報を知りたい際や紹介・逆紹介のご相談の際は、担当医及び医療ソーシャルワーカーへご相談下さい。



医療福祉連携室 田頭 隼人

連携施設 探訪

当院は、みなさんが住み慣れた地域で安心して生活していただけるよう、人吉・球磨地域の医療・福祉機関と連携して地域包括ケアを推進していきたいと考えています。そこで、地域の社会資源を周知していただくため、連携施設をご紹介します。

今回は「にしき園グループホーム にしき おおづる」さんです。

にしき園グループホーム にしき おおづる Vol.33

【施設の特徴・理念】

理念：自然を愛し・地域を愛し・人を愛す
地域の皆様に「信頼」される質の高いサービス、利用者の皆様に「尊重」し安全で優しい介護サービスを提供します。

常に介護・看護の知識の習得と技術の「向上」に努めています。

【対象者】

要支援2・要介護5の認定を受けた方で、認知症のある共同生活のできる方

【サービスの内容】

デイサービス 定員15名

認知症対応型共同生活介護 定員18名

【お問い合わせ】

TEL：0966-38-5070 FAX：0966-38-2522

管理者 田中 章子



【訪問者の感想】

H27年グループホームの2ユニットの内1ユニットは、リビングを囲むようにして居室があり、入居者の方は、リビングにいながらにして、自分の居室を確認することができる造りとなっていました。このような廊下沿いに居室がない造りは初めて拝見し、感動しました。外庭は、ゲートボールができるほどとても広く、利用者の方に評判が良いとのことでした。

ビーチボールバレー大会が開催されました

今年も HMC 職員が熱くなる、ビーチボールバレー大会が開かれました。

各チームとも優勝を目指し、練習を積み、チーム T シャツを作成し、大会前から力を入れています。試合も楽しみですが、各チームの工夫を凝らしたユニフォームや応援グッズも楽しみの一つです。また、普段クールなスタッフが試合になると熱く激を飛ばしたり、仕事では後輩をサポートする先輩スタッフが、ビーチボールバレーでは後輩スタッフのサポートを受けるなど、普段では考えられない場面が繰り広げられ、互いの意外な一面を知り親睦を深めることができました。

熱い試合の結果は、荻先生率いる 9F 病棟チームが優勝しました。

皆さん試合おつかれさまでした！！



年末年始のお知らせ

当院は12月28日から1月5日まで休診し、1月6日から通常体制の診療となります。

※急患につきましては、年末年始も受け入れを行っています。

新 任 紹 介



米良 麻美 (5階病棟・看護師)

最終卒業校：熊本医療センタ附属看護学校

趣味：友達とライブや旅行に行くこと

嬉しかったこと：結婚式ラッシュで、なかなか会えていなかった友達と会う機会が増えたこと

自分の長所・短所：よくも悪くも声が大きい

自分のコマーシャル：元気に頑張ります



申斐 夕加里 (9階病棟・看護師)

最終卒業校：加治木看護専門学校

趣味：お菓子作り

モットー：一歩一歩

自分の性格：マイペース

自分のコマーシャル：謙虚な姿勢で何事にも取り組んでいこうと思います。一生懸命頑張りますので、よろしくお願い致します。



吉田 幸美 (外来・看護師)

最終看護師：熊本看護専門学校

趣味：映画鑑賞

モットー：無理をしない

自分の性格：子どもより怒りっぽい

自分のコマーシャル：約10年ぶりの復帰で不安も大きいですが、精一杯頑張ります。



深水 瞳 (医事課・クラーク)

最終卒業校：熊本ベルエ・ベル美容専門学校

趣味：音楽を聴く事、ショッピング

モットー：常に笑顔でいること

自分の性格：マイペース、立ち直りが早い、人見知りをしないところ
自分のコマーシャル：初めてのことでばかりで不安もありますが、笑顔で一生懸命頑張ります！よろしくお願い致します。

ナイターソフトボール大会

10月4日(金) 今年最後のナイターソフトボール大会に参加しました。

結果は残念ながら2-3と惜敗してしまいましたが、今大会でも最後まで当院の持ち味であるチームワークを発揮し、正々堂々と戦うことが出来ました。個人的には、初めて試合に出場させて貰いましたが、エラーや走塁ミスなどチームに迷惑をかけてしまい、練習不足・体力不足を痛感させられました。次回の大会では必ず勝てるよう「One Team」でさらに頑張りたいと思います。

歯科口腔外科 中村 康大



「日本でもっとも豊かな隠れ里」サイクリング in ひとよし球磨

去る10月27日「日本でもっとも豊かな隠れ里」サイクリング in ひとよし球磨に人吉医療センター自転車部で参加しました。

この大会は九州内のサイクリングフェスでも規模が比較的大きく、内容もしっかりした大会で、Aチャレンジコース120kmは後半フルーティーロードのアップダウンと自転車部通称山江のおぐり兄弟坂と丸岡公園を登る激坂のコース、Bのんびりコース70km、Fファミリーコース30kmで行われました。当日は絶好のサイクリング日和に恵まれ、色づき始めた秋の山々を眺めながら、折り返しの湯前駅を目指し、設置されたランチステーションでは新米や炊き込みご飯や栗ご飯など、人吉球磨の食材と田舎ならではのごちそうをバイキング形式でいただき、各エイドにも地元の名産・名物が並び、地元の人達も楽しめる内容となっています。自転車部数名は大会運営にも携わり、人吉球磨流のおもてなしに役買っている大会でもあります。

来年は当院及びJCHOグループの病院からも参加が増えるよう更なるアピールを行なっていきます。

人吉医療センター自転車部 山田 一裕



11月の勉強会報告

11月5日(火)医療情報講習会

「令和二年度 診療報酬改定の動向」

一般社団法人 日本血液製剤機構 事業戦略部

谷澤 正明先生

11月7日(木)第108回消化器カンファレンス

「FDG-PET/CT 検査とそれに用いられる指標について」

日本メジフィジックスPET事業戦略推進部 荒川 慎司先生

「がん治療と術前栄養評価」

当院 外科 藏重 淳二先生

11月21日(木)県南乳癌Webセミナー 人吉球磨薬剤師会研修会

「最新の乳がん治療について(仮)」

川崎医科大学 臨床腫瘍学 教授 山口 佳之先生

11月25日(月)第67回人吉・球磨最新医療研究会

「肺癌周術期治療Up-to-date」

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 腫瘍外科 教授

永安 武先生

